「沼のほとり」
NPO 法人手賀沼トラスト会報 第８６号　（発行日：平成３１年２月１日）

手賀沼トラスト 20 周年記念講演会　盛大に開催

1 月 26 日(土)午後 1 時から、手賀沼トラスト 20 周年記念講演会が開かれました。20 周年行事としては最後の行事です。

開場が 1 時、1 時半講演開始の予定でしたが、1 時前からぞくぞくと聴衆が詰めかけました。会場スタッフはあわてて椅子を増設し、110 人収容の会場は満杯になりました。やむを得ずスタッフの一部は廊下で講演を聞くはめになりました。最終的には 123 名もの方が押し寄せ、110 組用意したおやつの袋が足りなくなりました。

定刻より早く坂巻副理事長の司会で開会し、遠藤理事長が開会挨拶をしました。つづいて愛弟子の小松崎茨城大学教授による遠藤先生の業績・人柄紹介のはずでしたが、なんと小松崎先生がインフルエンザにかかってしまいました。そこで、富沢事務局長が小松崎先生のメッセージを代読しました。以下がそのメッセージです。

この度は、手賀沼トラストの 20 周年まことにおめでとうございます。

遠藤先生を中心とする手賀沼トラスト様のとりくみは、都市農業の在り方、自然と地域・都市との共生の在り方をよりよくするうえで、本当に意義がありかつ他の地域への波及効果のある取り組みと思います。皆様のこれまでの精力的な活動が多くの方の共感と支持をいただきながら 20 年にわたり進められましたこと、大変素晴らしいことと存じます。

私は、遠藤先生には、大学助手のころから懇切丁寧にご指導をいただいておりました。当時、遠藤先生は、筑波大学教授、日本農作業学会会長、全国大学附属農場協議会会長を歴任され大変多忙ななかで、大学の勤務の終わった後に私の研究指導と論文指導をいただきました。遠藤先生からは、大変示唆のおおいご指導をいただきました。いまでもとくに覚えていることは、大学の研究と教育と両立することで本当に地域に役に立つ取組ができる、という点です。研究はどちらかといえば成果をあげるために個人主義に陥りやすいが、教育とともに取り組むことで農家にとって、地域にとって役立つ本当の研究ができる、とのお話を強く覚えております。

遠藤先生は、大学でのご勤務中でもご退官されたあとも、まさに学生や地域の皆様とともに活動されておりました。私は、農業のもつ素晴らしさを時代を超えてつなげていこうとなされている、遠藤先生のお姿にこころから感動しております。

手賀沼トラスト様のご活動は、まさに遠藤先生の農業・農学に対する夢や希望が実現されているのでないかと思います。この 20 年間に確実な発展を遂げられた皆様の実績とご努力に改めて敬意を表すと共に、手賀沼トラスト様の一層のご繁栄を心より祈念申し上げます。

また、ぜひ皆様と一緒に自然と共生する農業の在り方について取り組めればと思います。

本日は、創立 20 周年まことにおめでとうございました。

平成 31 年 1 月 26 日　茨城大学農学部附属国際フィールド農学センター長　小松崎将一

いよいよ、遠藤先生の講演が始まりました。演題は『土に生き農に学ぶ～土と農の持続性を未来

へつなぐ～』です。

第１話は「食と農の危機はすぐそこに」というテーマで、日本農業の在り方に高く警鐘を鳴らすものでした。

休憩をはさみ、第２話では「土に生き農に学ぶ私のトレサビリティ（履歴）」ということで、先生の生い立ちから苦学生時代の思い出、教官時代の研究歴など興味深いエピソードが紹介されました。

第３話では「持続可能な農業を未来へ」というテーマで、種子法の廃止など現政権の政策に鋭い批判が浴びせられました。

講演後の質疑応答で、寺田副理事長から、奥様とのなれそめについて質問され、先生が照れながら答え、さらに奥様への感謝の言葉を述べられると、会場は笑いと感動に包まれました。

こうして午後４時過ぎに講演会は終了しました。会場の設営・片付けに参加してくれた会員の皆さん、交流部会の皆さん、どうもお疲れさまでした。素晴らしい講演と多くの聴衆方々の参加で一年間つづいた記念行事の掉尾を飾ることができました。皆様、ありがとうございました。

＊記念講演会のレジュメを別刷りで添付します。お読みください。

＊講演会のビデオ録画もあります。会員の矢内さんが録ってくれました。

12 月、１月の活動報告

12	1	土	8:30	～	12:00	里山農教室	日暮会場	ネギ・ニンジン収穫、大掃除 修了式、芋煮会 スタッフ反省会	70	名
12	2	日	8:30	～	12:00	定例活動	城址	道路脇ゴミ収集、倒木処理	36	名
12	11	火	9:40	～	13:00	遊休農地	船戸圃場	菜の花小路作成	1	名
12	14	金	9:00	～	10:00	定例活動	城址 ミカン山	餅つき大会準備 餅つき大会用ミカン収穫	24	名
12	15	土	9:00	～	12:00	交流・イベント	日暮会場	【20周年記念イベント】 餅つき大会	179	名
12	16	日	8:30	～	12:00	定例活動	城址 みかん山	餅つき片付け 道路側斜面地除草	24	名
12	27	木	9:00	～	12:00	竹教室	日暮会場	竹教室（門松作り）	?	名
1	5	土	9:30	～	12:00	遊休農地	船戸圃場	菜の花の花芽摘み取り	56	名
1	20	日	9:00	～	12:00	定例活動	ミカン山 城址 船戸田圃	カイガラムシ防除マシン油散布 ミカン山用もみ殻堆肥作り ザクロ枝降し 倒木処理 菜の花芽欠き、道路清掃	35	名
1	20	日	9:00	～	11:00	遊休農地	船戸圃場	定例活動の１つとして花芽の摘み取り	26	名
1	24	木	9:00	～	12:00	竹教室	日暮会場	竹教室	7	名
1	26	土	9:00	～	11:30	里山農教室	けやき8階	平成31年度里山農教室スタッフ会議（第1会議室）	35	名
1	26	土	13:00	～	17:00	交流・イベント	けやき9階	創立20周年記念講演会 『土に生き、農に学ぶ』遠藤理事長	123	名
1	27	日	15:00	～	17:00	理事会	けやき10階	定例理事会（小会議室）	7	名

20 周年記念誌

記念誌を 2000 冊作りました。我孫子市役所・我孫子市議会・我孫子市市民活動団体・柏市役所・各種メディア・会報配布先などに配布します。

トラスト会員でまだお手元にない方には、５月の総会のご案内にあわせて郵送いたします。

また、残部がありますので、配布先がある方は事務局までお申し出ください。。

雑誌

今年から『やさい畑』隔月刊（家の光協会）を定期購入します。日暮会場の書棚に置きますのでお読みください。ジャガイモの新しい作り方など参考になる記事が載っています。

特別コース部会の新規参加者募集のお知らせ

新年度特別コース部会の参加者を募集します。
参加者には、城址下にある約 10 ㎡の圃場が貸与されます。
会報「沼のほとり」２０１５年１２月号に紹介記事が掲載されていますのでご覧ください。

募集人員　　５名　　申込者多数の場合は抽選により決定
参 加 費　　２０００円／年間
応募期間　　平成 31 年 2 月 1 日～2 月 28 日
申　　込　　村山　090-1214-3695　04-7103-3496　tadashi_murayama_abiko@yahoo.co.jp

2 月、3 月の活動予定

2	2	土	9:00	～	12:00	遊休農地	三角田んぼ 船戸圃場 宮前沼圃場	肥料散布 （追肥）
2	2 3	土 日	10:00	～	16:00	事務局・交流	市民ホール	我孫子市消費生活展
2	3	日	9:00	～	12:00	定例活動	城址 みかん山	外堀の管理、枯れ枝の処理 みかんの剪定
2	9	土	13:00	～	15:00	養蜂部会	日暮会場	今年度の活動予定検討など
2	17	日	9:00	～	12:00	定例活動	城址	枯れ枝の処理
2	17	日	13:00		15:00	里山農教室	水の館	子ども部会説明会
2	24	日	9:00	～	12:00	里山農教室	けやき7階	平成31年度里山農教室説明会（研修室）
2	24	日	15:00	～	17:00	理事会	けやき10階	定例理事会
2	28	木	9:00	～	12:00	竹教室	日暮会場	竹教室
2	未定			～		特別コース	日暮会場	例会
3	2	土	9:00	～	12:00	里山農教室	日暮会場	堆肥購入・施肥・耕耘
3	3	日	8:30	～	12:00	定例活動	田圃	田んぼの管理
3	9	土	8:30	～	12:00	里山農教室	日暮会場	開講式、*里山保全（城址管理・落ち葉集め）、オリエンテーション、* 機械点検・整備
3	9	土	13:00	～	15:00	養蜂部会	日暮会場	分蜂捕獲準備
3	16	土	8:30	～	12:00	里山農教室	日暮会場	ジャガイモ植付、暗渠清掃
3	17	日	8:30	～	12:00	定例活動	各所	状況次第
3	20	水	9:00	～	12:00	遊休農地	船戸圃場	菜の花畑散策と頭の体操イベント準備
3	21 ｜ 24	木 ｜ 日	9:30	～	15:30	遊休農地	船戸圃場	菜の花畑散策と頭の体操イベント開催
3	23	土	8:30	～	12:00	里山農教室	日暮会場	堆肥・ボカシ肥つくり
3	28	木	9:00	～	12:00	竹教室	日暮会場	竹教室
3	30	土	8:30	～	12:00	里山農教室	日暮会場	田圃整備、ネギ・カボチャ播種、ボカシ肥切返し(1回目)
3	31	日	15:00	～	17:00	理事会	けやき10階	定例理事会
3	未定			～		特別コース	日暮会場	例会
	未定					定例活動	ミカン山	施肥、ミカン・ミカン以外の木の剪定

菜の花圃場の状況　遊休農地対応グループ

船戸圃場：菜の花の花芽摘み取り

1月5日（土）午前、菜の花の花芽摘み取りを行いました。
今回は初めて有料で、一袋詰め放題￥100円で実施しました。
このような内容で「公開イベント」として実施した場合はどうかな？との考えもありました。当日は下表のように大勢の人が参加をし、楽しみながら作業が順調に進みました。
採った花芽は「おひたし」「天ぷら」「炒め物」などの食材として、美味しくいただけます。
最初の花芽を摘み取ったので、これからは脇芽を育て株を大きくし、綺麗な花を咲かせて、市民の皆さまに「菜の花畑散策と頭の体操」イベントを楽しんでもらいましょう。

摘み取り参加者人数と売上金額	大　人	子　供	合　計	売上金額
	42　名	14　名	56　名	￥4，400円

菜の花畑散策と頭の体操イベント関係の日程	
3月　1日（金） ～3月10日（日）	・イベントスタッフの募集 ・募集の内容は3月号に掲載します。
3月20日（水）	・イベント準備　：　受付用テーブルやなぞなぞ問題立て札の設置など
3月21日（木） ～3月24日（日）	・菜の花畑散策と頭の体操イベント開催（雨天順延） 開催時間は10時～15時で、スタッフは9時30分～15時30分の予定です。

宮前沼圃場　1月29日

宮前アート圃場　1月29日

三角田んぼ　1月29日

連　載　　ソムリエニュース　40

原　勇一

今回は寒い冬が旬の**ホウレンソウ**です。ホウレンソウは冷温にさらされると、甘みが増し、ビタミンなどの栄養価も増します。

ホウレンソウは**アカザ科ホウレンソウ属**の野菜です。アカザ科はあまり聞きなれない科なのでどのようなものがあるのか調べてみました。ホウレンソウの他に、ビート（ロシア料理のボルシチに欠かせない食材)、オカヒジキ(食用にするのは日本だけ)、スイスチャード（別名西洋フダンソウ)、野菜ではありませんが、北海道のサロマ湖などに群生する厚岸草があるそうです。

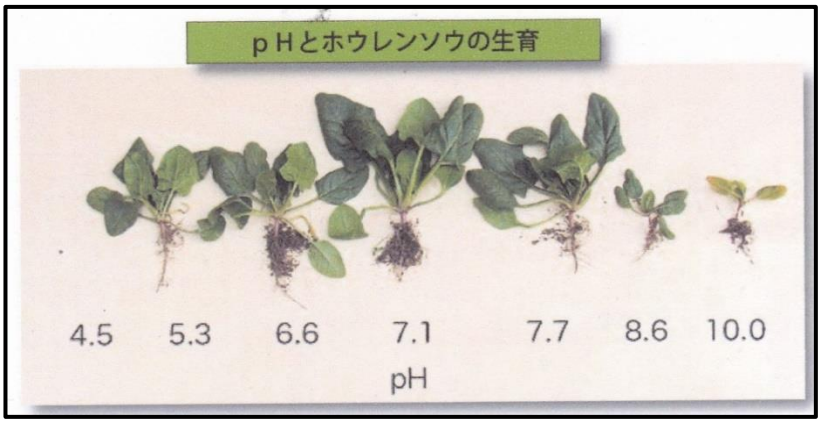
原産地はカスピ海南西部付近とみられています。おそらくペルシャ地方で初めて栽培され、ヨーヨッパには中世末期にアラブから持ち込まれ、東アジアにはシルクロードを通って、中国には 7 世紀頃に、日本には江戸時代初期（17 世紀）に東洋種が渡来しました。19 世紀後半には西洋種が持ち込まれましたが、普及しませんでした。大正末期から昭和初期にかけて東洋種と西洋種の交配品種が作られ、日本各地に普及しました。

産地：千葉県が 3 万 4 千トンで 1 位、以下埼玉県、群馬県、宮崎県。世界では中国が生産量の 85％で 1 位、以下米国、日本の順です。

良いホウレンソウの選び方：葉の緑が濃く、シャキッとしていて厚みがあるもの、根の付け根部分が膨らんでいるものは甘みがあっておいしいです。

保存法：ホウレンソウは乾燥に弱いので、濡れた新聞紙にくるみ、冷蔵庫の野菜室に根を下にして立てておく。冷凍する場合は茹でて冷水に落とし、水分をきって、小分けして冷凍します。

栽培：ホウレンソウの生育には土壌の PH が強く影響します。中性域が最も生育が盛んになりますが、近年の酸性雨の影響により土壌は酸性側に移行しやすくなっています。一般的には播種の前に苦土石灰などのカルシウム剤による中和が行われていますが、有機農法では使用しません。これに替わる中和剤としては草木灰があります。アルカリの主成分はカリウムですが、原料となる草、木の種類によりその成分は大きな差があります。木灰はカルシウムが多く、土壌の固化が起こりやすいので、草灰をお奨めします。草木灰は窒素分を含まないので（リン酸：カリ＝1：2)、鶏ふんや油カスと併用すると良いそうです。



ただし混用すると窒素分がアンモニアガスとなって揮散し、土中の窒素分が減少してしまうので、施肥のタイミングをずらす必要があります。またカリ成分が多くなり過ぎると、カルシウムやマグネシウムの吸収を阻害します。散布量は土壌の PH にもよりますが、1 坪あたり 100～150ｇ位で良いそうです。

草木灰には殺虫効果もあります。野菜の上から散布すればアブラムシがつかなくなります。土の上に散布すればヨトウ虫がよりつかなくなるそうです。

播種：ホウレンソウの種子は外殻に包まれていて発芽率が悪いためネキッド種子とよばれる裸種子が用いられます。生育初期は冠水に弱いので、排水の悪い所は高畝にします。

病虫害：ホウレンソウの病虫害の発生を防ぐ対策として　①連作を避ける（2 年以上)。②水はけのよい土壌にする。(ベト病、炭疽病の予防)　③アブラムシの発生を防ぐ。(防虫網、草木灰の散布、モザイク病予防)　④草木灰を水に溶かして（300 倍以上）上澄み液をかける（うどん粉病、モザイク病、サビ病の予防と治療)

ホウレンソウの種類：

東洋種…葉が薄く、切り込みが多く、根本が赤い

西洋種…葉が厚く、丸みを帯びている。栽培種はほとんどが東洋種と西洋種の交配種。

寒じめ縮みホウレンソウ…主に関東地方で冬に露地栽培されている。
サラダホウレンソウ…アクが少なく、生で食べられる。

赤軸，赤茎ホウレンソウ…アクが少なく、生でおいしく食べられる。茹でると赤みが消える。

栄養：ホウレンソウはビタミンやミネラルが多く、健康に良い野菜です。
100ｇのエネルギーは20Kcal、炭水化物は3.1ｇ、たんぱく質0.4ｇ、脂肪0.4ｇ、食物繊維2.8ｇです。**ビタミン**で多いものはβ-カロテン5400μｇ、ビタミンCが30ｍｇ、その他にもビタミンE、や葉酸、などを含んでいます。　**ミネラル**ではカリウムが490ｍｇと非常に多く、カルシウムが69ｍｇ、マグネシウムが40ｍｇ、リンが43ｍｇ、鉄は0.9ｍｇ含んでいます。

効能：β-カロテンは100ｇ中に1日の必要量の40%もあります。この成分はがん予防、動脈硬化や心筋梗塞などの生活習慣病予防に効果的です。また体内でビタミンAに転換され、髪の健康維持や視力維持、皮膚や粘膜の健康維持に役立ちます。ビタミンCも豊富に含まれています。風邪予防や美肌効果があります。またホウレンソウには鉄分も含まれていますので、この成分の吸収を高め、貧血予防の効果があります。ミネラルではカリウムが多く含んでおり、血圧を下げたり、むくみの解消にも効果があります。骨を形成するカルシウム、マンガン、リンを含むので、骨粗鬆症の予防も期待できます。
腎臓病の人や透析中の人はカリウムの摂りすぎに注意してください。ホウレンソウを食べる時は小さく切って水に晒すかお湯に通しましょう。　またホウレンソウには**シュウ酸**が多く含まれています。体内でカルシウムと反応してシュウ酸カルシウムとなり、**腎臓結石や膀胱結石**を引き起こすことがあります。茹でて水に浸すことによりシュウ酸を減らし、予防することができます。ベーコンと一緒に食べるとベーコンのリン酸塩がホウレンソウのカルシウムや鉄の吸収を阻害してしまいます。ベーコンを茹でておくと良いでしょう。

ホウレンソウの料理

ホウレンソウのポタージュ

材料：（2人分）

ホウレンソウ	1/3束
ジャガイモ	1/2個
タマネギ	1/4個
豆乳	1カップ
コショウ	少々
バター	大さじ　2
調味料	
白だし	大さじ　2
水	1・1/2カップ

作り方：

1. ホウレンソウは熱湯で柔らかめに茹で、根元を切り取り
   細かく刻む。
2. ジャガイモは皮をむき、1~2ｃｍ角に切る。タマネギはミジン切にする。
3. バターで2.を焦がさないように炒め、調味料を加えて15分煮る。1.と共にミキサーにかけてなめらかにする。
4. 3.を鍋に戻し、豆乳を加えて混ぜ、コショウをふる。

発行責任者 遠藤織太郎（TEL：04-7182-0387）　編集責任者 富沢　崇（TEL：090-2234-5610）
事務所：我孫子市白山2-13-5　編集責任者住所：我孫子市根戸新田135-3
e-mail：info@teganuma-trust.jp　ホームページ：http://teganuma-trust.jp/

土に生き農に学ぶ～土と農の持続性を未来へつなぐ～

NPO 法人手賀沼トラスト理事長遠 藤 織 太 郎

はじめに

今の日本では、食や農に対する危機的意識はきわめて希薄なのではないか。膨大な輸入農産物とその加工食品が溢れているからだ。しかし、その一方で国内の農業、その自給力は脆弱、衰退の一途を辿っている。しかも農業の衰退は、地域の環境や山河の荒廃に拍車をかけている。そのまま進んで良いのか、改めて自国の農業，食糧問題、環境問題を率直に見直し、持続可能な農業、食糧の安全保障、環境再生の在り方を「土に生き，農に学ぶ」という視点から、お話をしてみたい。

第１話　食と農の危機はすぐそこに

１．日本の食の現状

（１）大量輸入、大量消費、大量廃棄の実態

○飽食、グルメ三昧、一方で食の格差拡大、メタボ対策

○食への畏敬の念喪失、ありがたみの希薄化

○食べ残しの山(年間 約 700 万トン)、食品産業ロス(年間 約 2000 万トン)

＊世界全体のロスは 13 億トン、生産量の３分の１にもなっている。

（２）日本の農業の現状

○食糧自給率３８％、先進国最低

○農業生産基盤の劣化、脆弱化の進行

＊２０１６年の農業就業人口１９０万人に、高齢化（６５歳以上６５％）、４０代までは１１％、農地面積は４５０万 ha に減少、放棄地・遊休農地が１００万 ha 以上に拡大

○自由化拡大で土地利用型農業と畜産業は大打撃、国土荒廃が進む、瑞穂の国が消える危惧がある。

２．世界の食の現状

（１）食の分配は公平でない（国連・FAO 宣言、2018）

○輸入大国と飢餓国は 8 億人超栄養不足、食の格差拡大

○食の安全保障は国内、域内で確保へ

○食文化の見直し、ファーストフードからスローフードへ

（２）世界の食糧生産力は低下傾向へ

○温暖化、異常気象や近代化農業で土壌劣化、砂漠化により農地面積減少（約 13 億 ha)、食糧生産量（約 39 億トン）に低下

○農法の転換、持続可能な農業の推進、CO2 対策への寄与

○世界の具体的対策例

＊EU の CAP 政策、アメリカの環境保全型農業政策、韓国の身土不二政策などで効果を上げている。
今や持続性、環境重視の農業が世界の潮流

○日本では有機農業推進法や環境保全型農業基本法があっても機能不全、0，5%の有機農業、外国とは桁違いに低い。

○日本にあっては食や農に対する価値観、社会意識の変換が求められる

○新規就業者の拡大、市民による農・環境再生の取組（例.　援農ボランテイア、NPO 法人手賀沼トラスト）の拡大、大事なのは国・地方農政の具体的な推進対策

第２話　土に生き農に学ぶ私のトレサビリテイ（履歴）

１．1933 年　東京武蔵野台地の雑木林に囲まれた農家に生まれる
子供の頃は大自然の中に伸び伸び育つ

２．小２（1941）の時、太平洋戦争突入、小６（1945）の時終戦

○兄たち 3 人は出征、徴用で不在、畑仕事に励む

○食管制度下で農産物は国へ供出の義務、食糧は配給制度

○化学肥料も農薬もない時代、雑木林の落葉が堆肥、畜糞、下肥で土作り、農作業は手作業が主力

○小 5 の頃から毎日空襲、小 6 の 8 月広島・長崎に原爆投下、終戦となる（1945）

○食糧難が激化、学校給食もなくなる。

３．新制中学、定時制高校へ進む

○農村でも餓死者、市民はタケノコ生活

○中２のとき俳句を知り、句作に熱中、農のロマンを知る

○生物多様性畑仕事の中で句作、夜学通いに励む

○定時制高 2 年の時、第 1 句集「武蔵野」刊行

○アメリカの詩人ロングフェローの詩「Excelsar」（更に向上）に刺激され、大学進学を目指す

４．大学から研究所を経て、国立大学農学部へ

（１）1954 年　大学は一浪を経て、農と教育が学べる東京教育大学に入学

○大学１年の時、第２句集「萩の掌」刊行。また共書で句集「群青」刊行

○1958 年　大学 4 年で教員免許状（高・中学）取得、作物学専攻卒業
○農学栄えて農業亡ぶに共感、農業に役立つ総合科学としての作物学、教師像を目指す。大学農学部教務員を経て、
（２）1961 年（財）電力中央研究所・農電研究所（21 年間）で、農業研究に専念、併せて農電句会を設立、句集「あびこ」刊行
○手賀沼干拓地（500ha）での物質循環型の近代化農業の提言や物質循環型農業研究に専念、学術論文 50 編以上発表、その他報文多数。
○持続的農業最適設計に関する研究論文で東京大学より農学博士（1973 年）
（３）1981 年　新潟大学、筑波大学大学院教授として、持続的農業の教育・研究指導に当たる
○作物生産システム学研究室を設立、持続的作物生産を総合科学的に解明し、システム化する。教育・研究・実験指導、農林技術センター長を務める。
○大学で講義や研究指導に使ったノートを著作物に
　　１．持続的農業システム管理論、編著者、農林統計協会刊（1999）
　　２．農作業学、共著、農林統計協会刊（1999）
　　３．農学教育への道標、共書、筑波大学刊（2003）
その他関連図書多数刊行
５．現役退職後は地域貢献活動を目指す（1997 年より現在）
（１）生産者・消費者連携のあびこ型「地産地消」推進協議会とあびこエコ農産物直売所開設に努力（1998～2008）
○現在、水の館コーナーで農家主体のあびべじ（株）が直売所運営
○協議会は援農ボランティア、食育活動など継続中
（２）あびこ市鳥の博物館友の会設立に努力（2001）　現在　会員数 304 人と盛況
（３）1997 年　手賀沼トラスト発起人（5 人）、同設立（1999 年）
○自然と共生する豊かな地域づくりがモットー
○手賀沼周辺の農地、里山、水辺環境保全、景観形成
○土や生態系農業を学ぶ農教室を２０年継続中
○手賀沼周辺で増え続ける休耕農地、遊休農地の担い手となり、稲作栽培や景観形成で里山を基点とする豊かな地域づくり

第 3 話　持続可能な農業を未来へ
１．国連で SDG s（持続可能な開発目標（2015）を定め、各国が活動を開始。環境破壊や貧困格差拡大など乗り越え住みよい持続的社会を実現する。（17 項目　掲げる）
○農業に関連しては
　飢餓を無くす、食糧の安定確保、栄養の改善、持続可能な農業の推進などが　　掲げられている。
２．持続可能な農業を 3 つの側面から考える
（１）農業と環境の持続性の確保
○農的物質循環を作り、土壌の地力維持、（生物多様性）
　環境保全の確保、農業の多面的機能の維持・発揮
○農業生産力の持続と再生産の継続性
（２）持続可能な農業の担い手育成と確保
○子供の頃から自然や生きものに多く接し、感性や情操を豊かにする。教師は生徒に愛、敬、信をもって教育。農業教育の目的は持続可能な農業の優れた担い手という人間の育成、それに加えて、新規参入者の教育、国際農業研修生の教育、地域社会人の体験教育等も含まれる。
○担い手像としては、しっかりとした人格、その人の農業観（理念）の熟成、さまざまなより高度な資質や機能が必要となる。
○EU にはマイスター制度があり、農場経営はマイスター有資格が担う。世襲にはなってない。農業の担い手は５０代以下が中心。
（３）食と農への価値観、社会意識の持続性重視の側面
○持続可能な農業は地域や暮らしと不可分で多面的価値を持っている。
○今の政治や経済は持続可能な農業推進とは真逆の方向にあり、このままでは日本の農業は滅びる。
○果樹の木に例えれば、果実の実を見て、それを支える葉や枝・幹、根っこ、土の役割、生物多様性、環境保全機能など評価していない。
（４）食や農の在り方を土や環境・生物多様性から根本的に見直し、あるべき持続可能な農業の実現、そして食の安全保障について、今こそ市民から議論を深めるべき時である。

◎最後に NPO 法人手賀沼トラストは、今年から子供トラストを加え、未来につながる全世代型トラストとして農や里山環境を守る活動を展開することを申し上げ、私の話の締めくくりとします。